

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年通信 53号 通算 117号

2016.9.7(水)発行

第66回全国高等学校PTA連合会千葉県大会に参加して

2学年部会長 片桐 茂

8月25日(木)と26日(金)、千葉市の幕張メッセにおいて標記大会が開催され、教育振興会の石山副会長(3学年部会長)と総務課長の猪俣先生、片桐が参加してきました。



日差しが熱く、久々に紫外線が肌に刺さる感じを味わいました。地図上ではすぐ隣の建物なのですが、一つ一つの建造物が大きく、汗だくで会場を移動しました。全国から約1万人の参加があるとわれ、あの幕張メッセでも同一会場に収容しきれず、山形県の関係者はサブ会場で大きなモニターを見ての開会行事でした。松野博一文部科学大臣のあいさつに引き続き、森田健作知事のあいさつがありました。想像はしていたのですが、知事のあいさつは聴衆を引き付けます。何と言っても、お話し中突然、10秒ほど無言になるのです。その空白の10秒間程度の「心の溜め」は、「一瞬ボケたのかな?やばいな…」と思わせるぐらい長いのですが、その後、怒涛のような流れる口調はさすが政治家と思わせますが、何となく俳優の側面を感じました。お話の内容は、高校時代の森田青年は、勉強と部活動に限界を感じていたそうです。そんな中、父親の教育は厳しく、森田青年の努力不足を叱るだけでした。しかし、傍にいた母親の「そんなにがんばらなくていいのよ～」の一言が森田青年の心を救い今の自分がある、だから、家庭教育(PTA)は学校教育にはとても大切なのだ、という内容でした。知事の熱弁と言霊により、会場は感動の渦に包まれたようでした。

実は、ここから皆様に、特に女性保護者にお伝えしたいお話があります。基調講演として、千葉敬愛短期大学 学長 明石 要一氏のお話がとても印象に残り、今回ペンをとりました(実際はキーボードを打ってますが…)。明石学長は女性には3つのタイプがあるとはっきり明言されました。皆様、じゃんけんの「グー」の形を作ってください。その形をしたら、決して変更をしないで、以下の文章をお読みください。

- ① 親指を外に出して、握るタイプ(空手の正拳付きのイメージ)…男性はほとんどですが、女性は6~7割程度。
- ② 親指を中に入れて、握るタイプ…女性は2~3割程度。
- ③ 親指は外だが、人差し指とクロス(十字を形成)するタイプ…女性は1~2割程度。

それで、その握り方によるそれぞれの性格ですが、

①はリーダータイプで、ぐいぐい引っ張っていき、小さなことは気にしない(両手がふさがって目前に襖あったら、足で襖を開ける)タイプだそうです。

②は理知的で、奥ゆかしく、分析能力が高いタイプだそうです(生まれたての赤ちゃんは親指を中に入れているそうです)。

③はアンテナが高く、好奇心があり、情報収集が得意なタイプだそうです。親指がアンテナ替わり?(なァ〜アンテナ) *かっこの意味が分かった人は、多分③のタイプです。

はい。今から握り方を変えても無理なので、受け入れましょう。

ちなみに、娘さんにさせても、まだ、人格形成中なので、あまり意味がないみたいです。ただ、これは、明石先生に言わせると、ほぼ完璧に性格と一致するようです。

次に、草食男子・肉食女子の話に触れられて、現代だけではなく、過去も未来もその傾向は変わらないと話されていました。その例が面白かったのですが、病院の6人部屋に入院する場合、たいていの場合、男性は他の男性とコミュニケーションをとらず、カーテンを引き同室の5人とはなかなか話せない状態が続くようです。それに対し、女性は、お菓子を配り、自らコミュニケーションを取り、カーテンを開けたままにして、約半日で同室5人の患者さんと仲良くなるそうです。(明石先生がそう話した瞬間、何故か私の頭に、4組評議員の「HYさんなら、半日と言わず、2分30秒で5人と仲良くなる。」と声がしました、HYさん申し訳ありません。)

まとめの概要として、PTA役員選出は、女性の3タイプを入れると、とても強固な会になる。男子生徒は、将来のことを考え、家庭と学校で生きる力とコミュニケーション能力を付けさせる必要がある、という内容でありました。考えてみれば、本学年の役員は女性の方々のパワーに支えられています(クラス対抗の成績もそうかなあ)。NHKのとと姉ちゃんのように、女性の社会進出は世の中を幸せにしてくれると思います。そういう意味では改めて、今後とも教育振興会をよろしく願います(特に、親指を外にしてグーを握る女性の方々)。

最後になりますが、研修中に合唱コンクールや興譲祭があり、たいへん盛り上がりたと思います。女コンでは、何故か息子が学年で優勝?したみたいな感じ?なので、冗談で「おめでとう」とラインしたら、「ありがとうございます」と返信がありました。息子も冗談なのか、本気でうれしかったのか、怖くて、いまだに聞いていません。万が一、そっちの方向に行ったら、学年主任のYS先生、何とかしてくださいね。

注釈 多様な生き方が認められる世の中です。そのような場合でも保護者の方はしっかりご子息を見守ってあげてください。byYS



8月26日、27日に私は京都大学百周年時計台記念館を会場に行われた全国数学生徒研究発表会“マスフェスタ”に参加しました。これは全国で数学に関する研究をしている高校生が集まり研究発表をするものです。私は発表者として参加しました。この発表会に参加するにあたり私は“証明”について研究しました。中学2年の教科書に初出する「証明」の言葉ですが、この意味は「命題や仮定から適切な推論を用いて新しい命題を導くこと」(Wikipedia)です。では適切な推論とは何でしょうか。そのようなことを思い今回の研究をしました。後の研究概要は詳しく触れませんので気になる方は私までお尋ねください。



実際に発表をしてみて、他校の研究のレベルの高さに驚きました。実験回数がとても多く(例えば5000までの自然数をすべて抜き出す)、扱う内容のレベルが高く(ガンマ関数やベータ関数、今までとは違った考えを用いる)、すべて目的にかなった結論を導いていました。私の研究は数字を使わない分野なので実験は行わず、他の高校生が思いつかない分野(大学でもこの分野を扱うところが少ない)や考え方でしたが、結論があいまいに終わってしまい、発表でそこを衝かれてしまい自分の研究の未熟さを感じ入りました。研究機関の短さ(3ヶ月)が悔やまれます。ただ元々の目的の証明について私自身知ることができたので満足しています。

他校の発表を拝見しますと暗号の生成や図形の性質、確率と統計の分野に人気が集中しており、私のような数学の本質を探る研究はほとんど見受けられませんでした。またほとんどが日常生活に直結するものでした。面白いところをついているものも多くあり「皆数学が好きなんだな～」と思いました。

今後私は“ゲーデルの不完全性定理”について皆さんに“説明”しようと考えているのでよろしければ覚えておいてください。

マスフェスタに参加して 2年1組 O. K さん

このたびは付き添いという形で京都へ向かいました。というのも、マイコプラズマにかかり申し込みが遅れたからです。ホームルーム委員という立場で興譲祭を公欠してしまいとても申し訳なく思います。行きの新幹線では酔いました。思い出といえば、京都を訪れた私は最初に箸を買いました。先が細くとても使いやすい竹の箸です。



全国の高校生の研究はどれもレベルが高く、先輩方から引き継いできたその成果はみな研ぎ澄まされていました。京都大学の雪江明彦教授の講演は人生の粋が詰まったもので、数学という分野の奥深さを感じました。一馬君の研究は全国の高校生や先生方の注意を強くひきつけ、私もその説明の一端を担わせて頂きました。帰日も酔いました。この2日間は私にとって有意義なものだったと言えるように尽力します。

教育振興会本学年部会長の片桐さんから「全国高等学校 PTA 連合会千葉県大会」のご報告文書を頂きました。今年4月の学年部会で「学年通信に保護者の方も投稿下さい」とお願いしましたが、実現できたことを大変嬉しく思います。片桐さんは大役をお引き受け頂いておられますが、いつも我々を楽しませる話や企画も考えて頂いています。紙面からもお人柄？が溢れるほどでございます。きっと、同じ職場で働かれておられる皆さんへのご配慮もなされていることが想像できます。片桐さんには、今後「熟年男性の品格」というタイトルで一文お願いしたいところです。よろしくお願ひします。

片桐さんの文中、手の握り方で女性のタイプ分けのお話があり興味深く読みました。今後、様々な場面で活用させて頂きます？ ありがとうございます。私は、職業がらもあり「鉛筆の持ち方」および利き手でない方の手の置き方は気になります。それは、正しく持つのは機能的であることが1つです。特に米興生は学びの道で生きていくわけです。今までも数千時間を学びに尽くしたはずですし、これからの何万時間も学びに捧げるわけです。ですから、最も機能的に持つことはすごく大切だと思うのです。もう1つは「手の品格」です。実はこちらの方が重要だとも思うのですが、鉛筆を(ペンを)正しく持つ手は美しいのです。顔だけ見ると思われがちですが、同じ位に手にも目がいくものです。ですから、ペンや箸の持ち方とその動作には気配りして欲しいのです。意識すれば今からでも正しく直すことができますし、その方が将来的にイイと思います。「何がイイ」のか生徒諸君はよく分からないかもしれませんが、ここは素直に先輩の話聞いて？今日の学びや昼食時に少しだけ意識してみてください。女性の品格は語れませんが、手の品格には自信があります。手は口ほどにモノを言うっていいですね。

左の2人にマスフェスタの感想を書いてもらいました。ありがとう(と思うのですが期待に反して文章が短かったのが残念です。特にO. K君!)。君達2人で1000字では裏面が埋まらないので、このように「品格とは III」を私が書く破目になるのです。やはり原稿と言うものは「2000字」が基本です。片桐さんも2000字超と流石です。夏休みの読書感想文は「400字の原稿用紙5枚」が相場ですが、極めて正しい分量だと思います。実は本日、指数・対数の課題テストがあるにも関わらず、まだできていないことが八つ当たりの原因です。女性の品格の文中には触れられていませんでしたが、「八つ当たり」は、ある意味「品格の真逆の行為」です。しかし、私は、WK&OK切両君が心優しく、かつ私を深く理解してくれるから、またはこの方が話として面白そうなので言ってみたのですが、時間的にゆとりが無いことは確かです。私が品格を持ちえないのは、そもそもそのスタートラインである「心のゆとり」の欠如なのかもしれません。一例をあげます。昨夜、本を読んでいたところ妻から「こんな本読んでいるの？」と話しかけられました。心にゆとりの無い私は、なぜかムツときて「アナタに女性の品格を身につけてもらいたいから読んでます！」何て言ってしまうそうになりましたが、ギリギリセーフ！危ないトコロでした。これも心のゆとり無さゆえです。一応念のためいいですが、私の妻は品格を正しく身につけた素晴らしい女性です(妻の友人が米興HPを愛読しているのです?)。でも、まあ今日ひとつ分かった。品格いう前に、心にゆとりを持ち、心を整えて、曇りなき心で物事を見つめ考えることが大切だということ。品格ないけど今日で3%成長したかな？ 終